

共産党の4議席こそ、**市政でも 国政でも** 市民の暮らしの防波堤



村上かずしげ

地方自治体の本旨は「福祉の増進」です。安倍政権が進める暮らし破壊の政治から市民の暮らしを守るの、それも国言いなりで、アベ自公政治を地方自治体に持ち込むのか、いま地方自治体の在り方が問われています。

就学前まで「子どもの医療費は無料に

鉚路市の福祉の遅れを典型的に示しているのが子どもの医療費助成です。市は3歳までの助成でおしまい。鉚根の市町村のほとんどが中卒、高卒まで無料にしています。繰り返して議会質問で、子どもの医療費無料化の拡大を提案しました。共産党の提案が議会を変えました。与党議員も「あまりに見劣りする」と

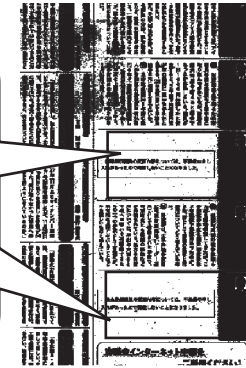


市長を追及する場面も。ついに、4月から小学校入学まで無料になります。さらなる拡大をめざします。

「言論の府」の良識を守る

議会広報不掲載問題

松永・梅津議員の欄は「不掲載の申し出があったので掲載しないことになりました」と書かれ空白に。(当初示された議会広報のゲラ)



28年12月議会の松永議員の市長の政治資金の質問と梅津議員の質問が好ましくないと、議会広報に掲載しないと攻撃がかけられました。しかも、議事録にするのは問題ないが広報に載せるのはダメなど、全く説得力なし。共産党議員団はすぐに市民と一緒に大反撃。マスコミも一斉に報道し、追い詰められた議長と広報委員長は、最後には掲載を認め、全面勝利となりました。

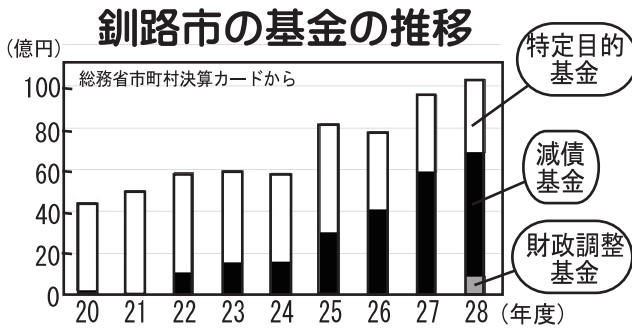


左からうめつ則行議員、西村まさとさん、工藤まさし議員、右はじが村上かずしげ議員

暮らしと地域を立て直す

日本共産党の提案

- ◆当面、小学校卒業まで医療費無料に。
- ◆国保の保険料一人1万円の引き下げ。
- ◆修繕して市営住宅2百戸を提供。
- ◆低額で入居できる高齢者の施設を。
- ◆農業と漁業の後継者・新規就業に生活保障の市独自の給付金を。



最近の8年間で市の貯金にあたる基金は56億円も増えました。基金のうち68億円は使途が限定されず、いつでも使える普通預金のような減債基金と財政調整基金です。この一部を活用しただけで、共産党の公約の財源は十分まかなえます。財政再建の基本は、福祉の財源を確保すること、身の丈を超えた西港などの大型開発を見直して、1265億円の借金を減らすことです。

蛸名 市政

自公政治そのままに 市民生活をないがしろ

地方自治体の役割を忘れ

「福祉は雇用」が持論の市長。しかし言うほどには雇用は増えず。国保料の軽減のための一般会計からの繰り入れは一貫して拒否、介護保険料や学校給食費の値上げ、修繕すれば使える市営住宅800戸を空き家のまま放置。

国に物言えないのも市長の特徴。とくに自衛隊のことでは国の言うまま。港や空港の軍事利用が増え、ついに公道を使って装甲車の訓練も。今年はオスプレイの飛来も心配されています。

大失政の市立病院問題

オープンした中央図書館。心配されたように、民間ビルへの間借りで賃料は30年間で51億円、50年間で75億円以上。もうかったのは道銀グループばかりです。

それに続いて、市立病院では新棟の実施設設計契約を一方的に解除して訴訟騒ぎに。裁判の結果にかかわらず基本設計分の1億円以上のお金は返ってきません。着工も大幅に遅れ、市長の政治責任は極めて重大です。

市民と一緒に実現しました 共産党の4年間の実績

- カジノの阿寒湖への誘致が事実上棚上げになりました。
- 就学援助の入学準備金が倍増、支給時期も入学前に前倒し。
- 今年度、国保料が一人平均で5千5百円引き下げ。
- 鶴野地域の雨水対策として星が浦川の河川改修着工。
- 今年阿寒川が水位周知河川に指定され、洪水対策が前進。